



JR東労組 (東日本旅客鉄道労働組合)
 東京都渋谷区代々木2丁目2番6号
 JR新宿ビル13F 〒151-8512
 電話 03-3375-5740(代)
 発行人 山口浩治 編集人 湯ノ目亜矢子
 月2回(1日、15日)発行/一部20円
 (組合員の購読料は、組合費に含む)

2018年10月15日
 第686号



JR東労組ホームページは
 ←こちらからアクセス
<http://www.jreu.or.jp/>

秋のたたかいは集中しよう!

秋のたたかいは「18春闘『敗北』の総括に踏まえ、職場の声に基づき新生JR東労組運動を創り出すことを基礎に信頼回復し、組織強化・拡大のうねりを大きく創り出そう」をスローガンに掲げて展開し、分会大会やレクリエーションなど開催されています。

JR東労組運動の基本は職場活動です。しかし、16年前の11月1日に「えん罪・JR浦和電車区事件」がでっち上げられ、当たり前の職場活動が否定され、JR東労組破壊が目論まれました。これまで私たちは、組織破壊の狙いを打ち破り、事件を風化させないために、11月1日に集会を継続して開催してきました。

現在のJR東労組は、信頼回復、組織強化・拡大が最大の課題です。だからこそ、秋のたたかいに集中することが重要であると判断し、11月1日に集会を開催しようとしてきました。

秋のたたかいは集中することで美世志会と共に築き上げてきたたたかいの成果を発揮し、新生JR東労組を全組合員で創り出していきます。

美世志会と共に平和な社会の実現に向け、秋のたたかいに全組合員が総力を結集しよう!

2002年11月1日に発生した「えん罪・JR浦和電車区事件」から今年で16年が経過する。この16年に及ぶ広範なたたかいは創造してきた全組合員の奮闘に敬意を表する。

不当逮捕された美世志会は、取り調べの中で「内側から壊せないから外側から壊す」「平和運動なんて生意気だ」「組織を半分にしてやる」と言われたように、事件の本質は労働運動や平和を希求する活動を破壊しようとする国策弾圧であった。美世志会は、厳しい取り調べと344日に及ぶ長期拘留の苦悩を仲間と組織を信じて乗り越え、JR東労組を守るために最先頭でたたかい抜いてきた。そしてJR東労組は、全組合員・多くの連帯する仲間と共に美世志会と家族を守るため、組織を強化しつつ攻撃を跳ね返してきたのである。

しかし、18春闘では情勢認識と組織実態を十分に分析せず、「格差ベア永久根絶」方針を強行したことにより、組合員の信頼を低下させ、大量脱退を生み出すという「大敗北」を喫してしまった。この経過を総括し、新生JR東労組を職場からのたたかいで創造することが求められている。

安倍首相は、多くの国民の意思を無視し、戦争する国へ向け突き進んでいる。私たちの働くJR東日本は、ひとたび戦争が起きれば、2006年に制定された国民保護業務計画に基づき行動をすることになり、攻撃の標的にされてしまう。働く者のみならず乗客までも、安全・生命が脅かされるのだ。

私たちは、これまでの運動の総括に立ち、組合員一人ひとりが憲法改悪を自分自身の問題として捉え、戦争反対の立場を明確にして実践することが求められている。職場議論を通じ、美世志会と反弾圧のたたかいで連帯した仲間たちと共に平和な社会の実現を目指さなければならない。

昨今、悪質な列車妨害が多発している。2020年に開催されるオリンピック・パラリンピックの成功に向け、重要な輸送を担う使命を自覚し、悪質な列車妨害に対して警戒心を高め、職場内での不安要素を払拭し、安全・安定輸送に全力を傾注しよう。

働きやすい職場づくりや労働条件の向上は、組織力がなければ勝ち取ることは出来ない。労働者にとって平和な社会をつくることも然りである。そのため15年にわたって開催してきた「11・1集会」は、全機関が秋のたたかいに集中するために見送ることとした。

この16年間のたたかいの軌跡を再確認し、組合員の利益を守ることと同時に、不当にも懲戒解雇となった美世志会を守り抜くために、組織強化・拡大に向けて全力で邁進しようではないか!

JR東労組運動を強化するため、全機関が秋のたたかいに集中しよう! 組織への信頼を取り戻し、新生JR東労組を職場から創り出そう!

2018年10月11日

東日本旅客鉄道労働組合
 第8回中央執行委員会

反弾圧の闘いの成果を踏まえ、新生JR東労組の創造を仲間と共に!

2002年11月1日の不当弾圧から今年で16年が経過します。JR東労組12地本が一体となった長きにわたる反弾圧の闘い、そして私たち美世志会と家族を守るために奮闘していただいたすべての仲間の皆さんに心からお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

私たち美世志会が逮捕され、つらく厳しく、苦しかった344日間の拘留を乗り越え、長期の裁判闘争を闘い、今日まで労働者として家族と共に生活できているのは、JR総連・JR東労組があったからに他なりません。組織強化を踏まえた反弾圧の闘いと広範な連帯の輪を創り出したことにより、国家権力・企業権力によるJR東労組破壊という本質的な攻撃に勝利してきました。

しかし、今18春闘において本部方針の誤りにより、3万名を超える組合員が脱退するという非常事態に陥り、結果「大敗北」と総括する状況になってしまいました。

私たち美世志会は、現在の組織状況を鑑みて「11・1集会」の開催を見送る決定をした本部の英断に賛成し、組織拡大を含めた今後の闘いの前進に向けて共に進んでいきます。

18春闘を巡る過程において、吉川前委員長は「美世志会はグニャグニャになった」「『おまえにクビを切られた』と上原に言っていた」「山田と斉藤が詰め寄ってきた。斉藤はビデオ撮影していた」などと嘘とデマで自らの「正当性」を主張しています。また、宮澤前副委員長の「これまで東京は美世志会のためにやってきた。そんなこと言われるとたまったものではない」という発言は、美世志会に対する言論封殺です。さらに、成田前中央執行委員が「上原は二度クビになる」などと発言していることは美世志会の懲戒解雇撤回の闘いへの敵対だといえます。

そして、「大量脱退は会社による不当労働行為によるもの」と切り締め、主体的な総括と反省に立つことなく、「反本部」の運動を創り出している水戸・東京・八王子地本の一部役員とそれに同調する一部OB会は、JR東労組結成当初からの組合員を主体とした運動づくりに反するものであり、組合員に対する責任を放棄しているといえます。

さらにいえば「憂う会」の組織破壊者ら、「真実の声」なるデマ情報を垂れ流す者たちは、美世志会が公安警察に言われた「JR東労組は内側から壊せないから外側から壊す」との発言に対し、自らが「内側から壊す」道を取ったと言わざるを得ず、断じて許すわけにはいきません。

現在、多くの職場で会社による不当労働行為に対して、分会役員が前面に立ち攻撃に抗する闘いを組合員と共に創り出しています。この闘いこそが、この16年の反弾圧の闘いを創り出してきた基礎だといえます。今こそ、組合員と共に運動を創るという原点に戻らなくてはなりません。

安倍首相は、白衛隊を憲法に明記することを含め、「戦争をする国」へ向けて憲法改悪に具体的に突き進んでいます。労働者にとって真の平和を希求する闘いも強化しなければなりません。

全組合員の皆さん!

16年間、共に創り出した反弾圧の闘いの過程における成果・教訓を一人ひとりの組合員の皆さんに再認識していただき、この難局を突破していきましょう!

真実をしっかりと見極め、12地本一丸となって新生JR東労組を創り出すために、組織強化・拡大に向けて美世志会もさらに奮闘します! 共に闘おう!

2018年10月15日

美世志会

「えん罪・JR浦和電車区事件」とは

2002年11月1日、JR東日本で働く7名の社員(1名は元社員)が突然、家族の目の前で逮捕されました。彼らはJR浦和電車区(現在のさいたま運転区)に所属する運転士で、容疑は「強要罪(一人に何かを強引にさせる罪)です」。

事の発端は、2001年に職場の仲間だったY君が他の組合(JR東労組から分裂し対立関係のある)のキャンプに参加したことが明らかになったことでした。心配した職場の仲間たちはY君に事実を問いましたが、Y君はウソの謝罪をして職場の組合員をごまかしたのです。さらにウソをごまかすためにウソを重ねるY君に、信頼を裏切られた仲間は反省を求め議論をしたのです。しかしY君は反省することなく、自らの意思でJR東労組を脱退(2001年2月)し、その後JR東日本を退職(2001年7月)しました。その半年後(2002年2月)にY君は被書届を出し、11月1日に突然の自宅捜索、逮捕となったのです。



4月12日に発生した郡山駅にて留置車両が逸走した事象に端を発して、毎月数百件におよぶ列車妨害が発生し、10月1日以降不審な動向が顕著に現れている▼10月8日常磐線の上り普通列車がいわき駅・内郷駅間を走行中異音を感じ、緊急停止した。近くに置いてあった工事用資材のうち金属やコンクリート柱の一部が持ち去られ、上下線の線路上に散乱していることが発覚した。何者かが移動させたかみて、列車往來妨害容疑で警察は捜査にあたっている。9日には前日の発生箇所から600m以上離れたくない線路上にブロッカーや標識などが置かれ、8日と同様に列車と接触している▼安全・安定輸送を担う私たちは、小さな事象も見逃さず、悪質な列車妨害を決して許さない▼10月2日、申5号「安全・安定輸送の確保を指し職場の不安解消を求める申し入れ」の団体交渉を行い、職場の不安解消と安全・安定輸送を創り出すことを確認した▼安全・安定輸送の源は職場活動である。列車妨害を含め、様々な職場問題に対して「報・連・相」で組合員と議論を積み重ねることが重要である。(H・S)